

食べ慣れたもの備蓄しよう

在宅避難の食事 障害者と家族ら防災学ぶ

豊橋「さくらピア」近隣住民も参加

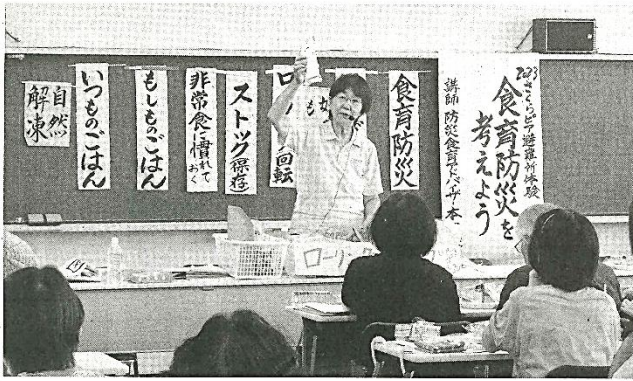
障害当事者や家族、ボランティア、地域住民らが防災について学ぶ「さくらピア」避難所体験2023が9月30日、豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で開かれた。

【田中博子】

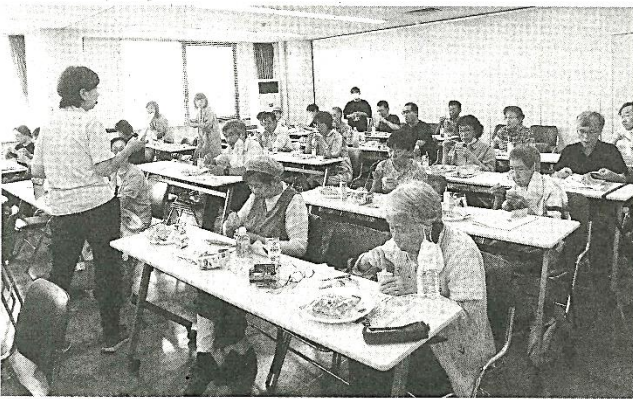
指定管理者の「豊橋障 福祉関係者、近隣住民ら が避難生活などを検証す (豊障連)による事業。 障害当事者主体の継 続的な防災啓発事業は国 館で障害者や家族・行政・

毎年テーマが異なり、 今回は「在宅避難」を念 頭に「食育防災を考えよ う」と題し家庭での備蓄 食料について考えた。

講師はさくらピア事務 長で防災食育アドバイザーの本田栄子さん。「非 常食は『特別な食事』の 意味ではない」とし、普 段と違うものを食べると 食べづらかったり満足で きなかつたりすることか ら「食べ慣れたものを備 えて」と説いた。



ローリングストックについて説明する 本田さん=いずれもさくらピアで



備蓄向きの食品を試食する参加者一同

東愛知新聞
2023年10月1日(日)

好きなもの、長期保存 できるもの、自然解凍で 食べる冷凍食品などを備 え、月1回消費しては買 い足す「ローリングスト ック」を提唱。お勧めの 飲み物や菓子などを紹介 したほか、講義後は美食 の時間も設けた。

初めて参加した市内の 60代女性は「これまでは 10年もつような保存食を ストックしていたが、同 じものはかり食べ続ける のは嫌だと思ひ賞味期限 の残るうちに周囲に配つ てしまった。今回聞いた ことを参考に改めてそろ えたい」と話した。

この日は避難訓練もあり、参加者を含む全館利 用者が施設前の公園に移 動し、初期消火訓練に取り 組んだ。

社会

15年 認可 東日新聞

さくらピアで避難所体験

食育防災アドバイザー・ローリングストックなど説明 本田栄子さん講師に

豊橋市東新町のさくらピア豊橋市障害者福祉会館は9月 30日、避難所体験2023「食育防災を考えよう」を開い た。食育防災アドバイザーの本田栄子さん(同館事務長)が 講師となり、減災対策やローリングストックなどについて説 明した。

(原田ひとみ)



ハザードマップを見せる本田さん(さくらピアで)

1部は「クイズで 学ぶ減災対策」。日 ごろからハザードマ ップを見ておくこと や、防犯・防災情報の 「豊橋ほっとメール」 に登録しておくこと の大切さを話し、避 難所や非常口のマー クの種類と意味など を解説した。 また、「自宅、友 人知人宅などの分 散避難へ考え方が変 わってきている。停 電しても3日間家族 で過ごせる備蓄が必 要」とし、ソーセー ジ、パックジュース、 自然解凍できる冷凍 食品など実物を示し ながら、「非常食は 好きなもの、長期保 存できるもので、普 段から食べて買い足 す。『もしものこは ん』を『いつものこ

はん』にしておくこ とが大事」と呼びか けた。

2部は「ローリン グストックお話し体 験」として、非常食 になるパンや菓子な

市内から参加して いたヘルパーの近藤 陽子さん(65)は、「夫 に持病があり、分散 避難の考え方に納得 した。ローリングスト ックについてよく学 べた」と感想を話し た。(原田ひとみ)

東日新聞
2023年10月1日(日)